

# バリアフリー化対策48億円 キャッシュレス支援7億円

政府補正予算案閣議決定

政府の経済対策を盛り込んだ2019年度補正予算案が13日閣議決定され、バス・タクシー関係では、鉄道などを含む公共交通のバリアフリー化に48億1900万円が編成された。ノンステップバスやユニバーサルデザイン（UD）タクシーの導入費補助金が拡充される。

国土交通省では「災害時での要配慮者の避難・移動手段を確保するとともに、地域で高齢者らが自家用車に頼らず、安全・安心に移動できる環境を整備する」としている。

また、地域の公共交通事業者の生産性の向上とMaas（マース、移動サービスの連携・統合）の構築・普及に向け、AI（人工知能）デマンド交通やバス、タクシーなどのキャッシュ

レス決済の導入支援として、7億7000万円を計上。機器類・システムの経費の一部を助成する。

衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い急発進抑制装置を搭載する「安全運転サポート車（サポカー）」の新たな購入補助金を創設。12億4900万円。

「65歳以上の者が運転するタクシーなど」を対象とした。高齢運転者の交通安全対策の一つ。

補助額は、被害軽減ブレーキと踏み間違い急発進抑制装置の両方を備える車両の場合、登録車10万円、軽自動車7万円、中古車4万円。被害軽減ブレーキだけだと、登録車6万円、軽自動車3万円、中古2万円。

後付けのペダル踏み間違い急発進抑制装置では、障害物検知機能付きが4万円、同機能なしが2万円となっている。